

## 命とは本当の幸せ

(原文は英語)

チツラ・カルナ (8 歳)

マレーシア・ケダ州スンガイ・プタニ市  
リージェント・インターナショナルスクール

命とは何でしょうか。私は 8 歳なので、8 年間しか生きた経験がありません。生まれてから最初の 2 年間のことはほとんど覚えていません。ですから、6 年間と少しの経験から、私にとって命が何であるかという問いに答えたいと思います。

命の意味を最初に考えるようになったのは、海外の幼稚園に入園した時です。私は、その国の言葉をお話することも、その文化を理解することもできませんでした。父が日本で働くことになったので、私たちは芦屋に引っ越すことになりました。私はマレーシアの友だちとはなれ、新しい学校に入学しなければならませんでした。

私にはすべてが初めての経験でした。先生の言っていることが理解できず、どうしてよいかわかりませんでした。とても怖い思いをしました。寂しくて、新しい食べ物も好きにはなれませんでした。マレーシアはいつも暑くて晴れていますが、日本の気候は私には寒すぎました。

とても悲しくて、心が傷つきました。皆が親切にしてくれましたが、マレーシアの家のこと、学校のこと、すべてが恋しくてたまりませんでした。もうこれ以上がまんできなないと思っていたある日、地しんのひなん訓練がありました。本当の地しんではありませんでしたが、実際の緊急じたいの時と同じように大きな音でサイレンが鳴りました。私たちは並んでひなんしなければならなかったのですが、何が起きているのかわからなかった私は泣いてしまいました。先生がただの訓練だと言ってくれたのは覚えていますが、それでも私には理解できませんでした。次の日、私は学校に行きませんでした。

すると両親が私にこう説明してくれました。「どの国もそれぞれに違うもの。マレーシアには自然災害はないけれど、環太平洋火山帯の上にある国々には地しんがあるので、とても危険な場合がある。防災マニュアルを守らない人は、命を落とすこともある」と。

私はこの時、自分にとって命とは何であるかに気づきました。生きていられるだけで幸せであり、運が良いということに。命が私に与えてくれる一瞬一瞬を楽しむのは、なにも生まれた国である必要はありません。生きるとは、変化すること。生きるとは、自分の周りの現実を受け入れて、その違いを大切にすること。生きるとは、学ぶこと。生きてると失敗や迷いもありますが、希望が失われた時にこそ、本当の幸せを見つけることができます。物事は良い方向に変わっていくことができるのです。

その次の日、私は学校に行きました。食べ物に違いはあるかもしれませんが、新しい味に慣れてき

て、その味が好きにさえなりました。日本語の勉強が楽しくなり、新しい友だちと遊ぶのがとても好きになりました。もう寂しくも悲しくもなくなりました。

誰にだって、心がゆれて不安に思う時があります。だからといって、周りにある幸せに感謝する気持ちを忘れてはいけません。地球という船に乗るために、命が与えてくれるチケットは1枚だけです。ですから、どんなに絶望した時も、自分たちに幸せをもたらしてくれるあらゆるものに目を向け、それを大切にしなければいけません。本当の幸せを見つけるために、自分の夢と希望がかなうのを待つこととはなく、苦しみが通り過ぎるのを待つこともありません。一瞬一瞬を大切にし、周囲の人たちとつながりを持ち続け、どんな状況にあっても本当の幸せを感じる瞬間を見つけなくてはなりません。

歯が抜けると、昔は悲しくて泣いていましたが、今ではそんな瞬間も大切に思うようになりました。歯が抜けたとしても、やがて新しい歯が生えてきます。それはうれしいことです。もちろん、歯が抜ける間は少し痛いこともありますが、その少しの痛みを体験しないと、新しい歯は生えてこないのです。

試験に落ちても、また次のチャンスがある。私は、そうやって希望を持つことで本当の幸せを感じます。そうするしかないから幸せなふりをしているわけではありません。嵐の後には必ず暖かい太陽の光がさすと信じているので、心から幸せを感じます。私にとって命とは、本当の幸せなのです。